

さけます情報

# 北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

そとやま よしのり  
外山 義典 (水産資源研究所 さけます部門 資源増殖部)

## 2021 年の北太平洋

### 漁獲数

2022 年に公表された NPAFC 統計データによると、2021 年 1-12 月の北太平洋におけるさけます類の漁獲数は 6 億 6,015 万尾で、前年 3 億 2,252 万尾の 205%でした (図 1A)。

魚種別に見ると、カラフトマスが 5 億 2,721 万尾で最も多く、全体の 80% (前年比 260%) を占めています。次いでベニザケが 7,083 万尾 (構成比 11%, 前年比 119%), サケが 5,476 万尾 (構成比 8%, 前年比 103%) と続き、これら 3 魚種で全体の約 99%を占めています (図 1A)。地域別では、ロシアが 4 億 394 万尾 (前年比 226%) と最も多く、次いでアラスカが 2 億 3,531 万尾 (前年比 198%) と両地域で全体の 96%以上を占めています。

す。以下、日本 1,836 万尾 (前年比 85%), アラスカ以外の米国 (ワシントン, オレゴン, カリフォルニア, アイダホ州) 181 万尾 (前年比 215%) カナダ 66.8 万尾 (前年比 27%), 韓国 6.8 万尾 (前年比 125%) と続いています。ロシアとアメリカ, 韓国の漁獲数は増加しましたが, 日本とカナダは前年に比べて減少し, 近年の減少傾向が目立ちます (図 1B)。

### 人工ふ化放流数

2021 年 1-12 月に各国から人工ふ化放流された幼稚魚数は 50 億 71 万尾で、前年 50 億 9,884 万尾の 98%でした (図 1C)。

魚種別ではサケが 32 億 7,243 万尾で全体の 65% を占め、これに次ぐカラフトマス 12 億 2,650 万尾と合わせると全体の 90%近くを占めます (図 1C)。

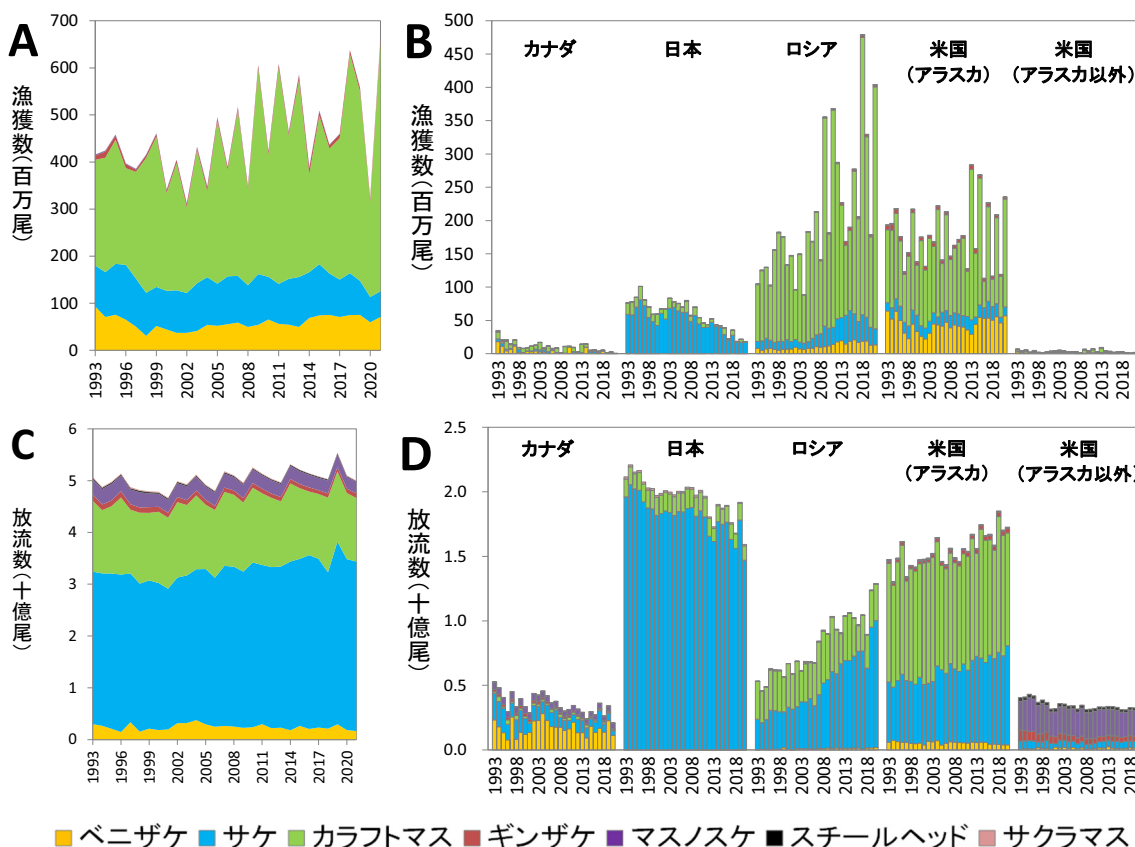


図 1. 北太平洋におけるさけます類の魚種別漁獲数 (A), 地域別魚種別の漁獲数 (B), 魚種別人工ふ化放流数 (C) 及び地域別魚種別の人工ふ化放流数 (D)

A 及び B は「NPAFC Pacific salmonid catch statistics (updated 21 June 2022)」, C 及び D は「NPAFC Pacific salmonid hatchery release statistics (updated 21 June 2022)」より作成 (参照 2022-11-8)。アラスカ以外の米国はワシントン, オレゴン, カリフォルニア, アイダホ州の合計。韓国は他国に比べ漁獲尾数・放流尾数とも僅かなため図中では省略。

地域別ではアラスカ 16 億 7,858 万尾、日本が 15 億 2,116 万尾、ロシア 13 億 1,736 万尾、アラスカ以外の米国 2 億 7,502 万尾、カナダ 1 億 9,822 万尾、韓国 1,038 万尾となっています (図 1D)。

## 2022 年漁期の日本

### サケ

2022 年漁期 (2022 年 8 月～2023 年 2 月) の来遊数 (沿岸漁獲と河川捕獲の合計) は 1 月 31 日現在 3,431 万尾 (前年同期比 178%) で、7 年ぶりに 3,000 万尾を超えました (図 2)。このうち北海道では 3,347 万尾 (前年同期比 180%)、本州太平洋側では 39 万尾 (前年同期比 116%)、本州日本海側では 45 万尾 (前年同期比 151%) と、いずれも前年を上回っていますが、本州は引き続き低い水準となっています。採卵数は 1 月 31 日現在で 15 億 3,610 万粒 (前年同期比 132%) となっており、放流数は計画 (12 億 8,381 万尾) を上回ることが見込まれます。

### カラフトマス

カラフトマスは 2 年で回帰するため、偶数年級と奇数年級で異なる繁殖集団を形成していると考えられます。主産地の北海道における来遊数の動向を見ると、偶数年級の来遊数は 2016 年に増加しましたが、2018 年から減少傾向を示し、2022 年漁期 (2022 年 7 月～11 月) は 57 万尾 (前年比 68%) と、1974 年以降で最低の来遊数となりました (図 3)。奇数年級は 2007 年以降減少傾向を示しており、2021 年は 84 万尾となりました。採卵数は 2,799 万粒で計画数の 18% となっており、放流数も計画 (1 億 2,540 万尾) を大きく下回ると見込まれます。

### サクラマス

2022 年漁期の北海道における河川捕獲数は 11,471 尾 (前年比 90%) となり、2000 年以降の平均の 107% となりました。地域別には、オホーツク海区で前年比 151%、日本海区で 58%、根室海区で 181%、えりも以西海区で 16% と、オホーツク海区と根室海区では前年を上回りましたが、日本海区とえりも以西海区では前年を大きく下回りました。採卵数は 683.8 万粒で、計画数の 105% となりました。なお、2022 年漁期の本州河川捕獲数については現在確認中です (図 4)。

### ベニザケ

2022 年漁期の北海道 3 河川 (安平川・静内川・釧路川) における河川捕獲数は 699 尾で前年比 110% となりました。

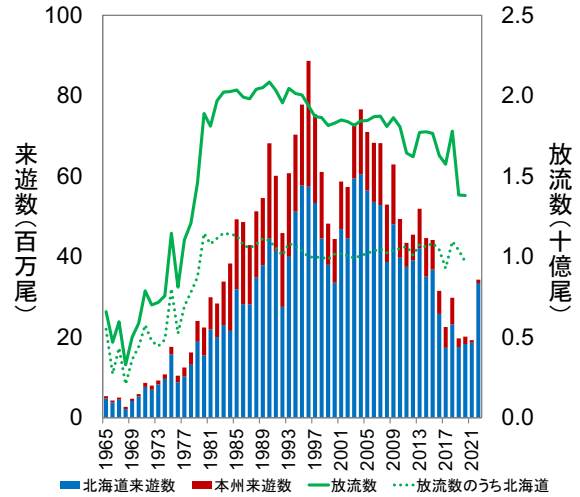


図2. 日本におけるサケの来遊数と人工ふ化放流数 (2022 年漁期来遊数は 1 月 31 日現在)

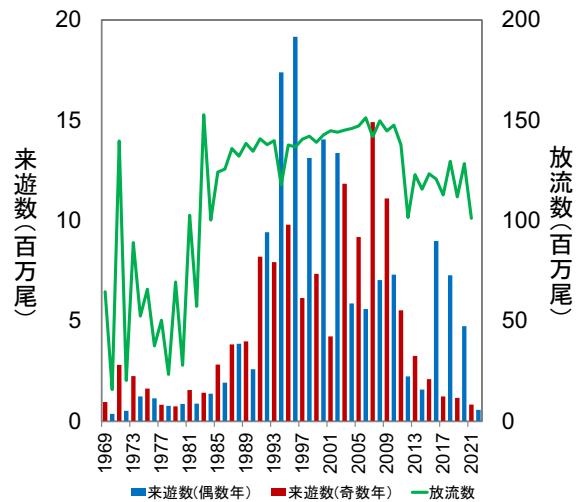


図3. 日本におけるカラフトマスの来遊数と人工ふ化放流数

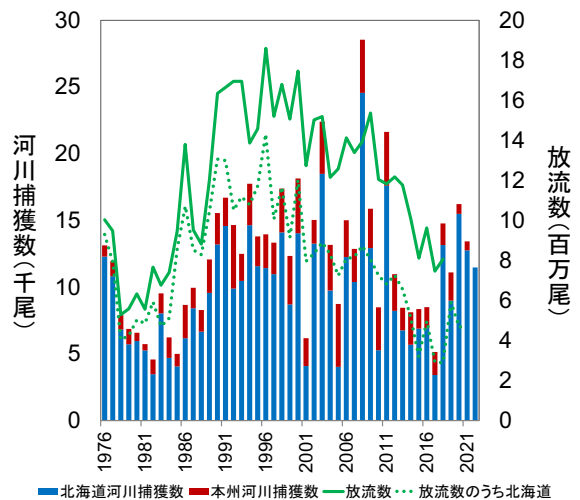


図4. 日本におけるサクラマスの河川捕獲数と人工ふ化放流数 (2022年漁期の本州河川捕獲数は確認中)